Tokyo Metropolitan Archaeological Center

たまのよこやま

特集 関東考古学フェア

令和元年度企画展示
「ひと×いきもの」益々好評開催中!!

東京都埋蔵文化財センター報 118

連携事業報告 関東考古学フェア2019

関東考古学フェアは、全国埋蔵文化財法人連絡協議会関東ブロック協議会加盟法人（11 団体）が行う埋蔵文化財調査・研究の成果及び文化財の意義等を広く市民に周知することを目的として、企画・実施しています。今年で９年目になりますが、今年度の事業は、①遺跡発表会、②「発掘された日本列島 2019」展における展示解説、③スタンプラリーの三事業です。

・・・遺跡発表会「発掘された関東の遺跡 2019」・・・

７月 13 日に千葉県市川市の山崎製パン総合クリエイションセンター飯島藤十郎社主記念 LLC ホールで開催され、231 名の方の参加がありました。遺跡発表会は、関東地方の遺跡に関わる最新情報を一般の方にお届けすると共に、「発掘された日本列島 2019」展に展示されている関東の遺跡や関連する遺跡について、展示をより一層深く理解していただくために行っています。

発表遺跡は、千葉県印旛郡酒々井町墨古沢遺跡、栃木県足利市行基平山頂古墳、群馬県吾妻郡東吾妻町岩櫃城跡、群馬県吾妻郡長野原町東宮遺跡の４遺跡で、特別講演として、「発掘された日本列島 2019」展の見どころについての講演がありました。

墨古沢遺跡は、約 34,000 年前に形成された旧石器時代の環状ブロック群です。酒々井町教育委員会酒井弘志氏の発表では、その規模は南北 70 m、東西 60 mあり、日本最大級となることや、出土した石器には台形様石器、ナイフ形石器、削器、彫刻刀形石器、楔形石器、石錐などがあり、使われている石材は７割以上がガラス質黒色安山岩で、他には黒曜石、玉髄、トロトロ石、流紋岩などもみられ、そのほとんどが県外から持ち込まれた石材であることなどが紹介されました。なお、環状ブロック群の６割程は確認調査後、現状保存されています。

行基平山頂古墳は、足利市教育委員会佐藤弘氏より発表がありました。足利市は、古墳が 1,300 基以上分布しており、栃木県内でも最も古墳が多い地域です。行基平山頂古墳は、合計 26 基からなる機神山古墳群の内の１基で、尾根頂部に築造された前方後円墳として貴重であり、昭和 53 年に市の史跡に指定されています。平成 24 年から 27 年にかけて行われた調査では、築造年代が６世紀初頭と確認され、機神山古墳群の中でも初期に構築されたことがわかりました。前方部北端の張り出し部からは、形象埴輪として、女子人物像７個体、男子人物像２個体、鳥形２個体、馬形２個体以上のほか、人面付き円筒埴輪７個体以上が出土しました。人面付き円筒埴輪は、形象埴輪群の最南端に並べられ、古墳を守護する役割があったと想定されています。

岩櫃城跡は群馬県東吾妻町教育委員会の吉田智哉氏より、武田氏・真田氏にゆかりのある山城について解説がありました。岩櫃城は、「群馬県内最大規模の山城」といえるものですが、平成 25 年度から 27 年度に範囲確認調査が行われ、「破城」（城を壊す行為）の結果埋められた「薬研堀」の堀が見つかっている他、鍛冶工房に伴うと思われる鍛造剥片（鉄器を叩いて作るときに出る破片）が確認されており、城内で武具の補修などを行っていた可能性があります。また、出土したかわらけの形や胎土が群馬県内で一般的なものではなく、山梨県や長野県に類似の事例があることから、武田氏（甲斐国）や真田氏（信濃国）の影響をうかがうことができるようです。

東宮遺跡は、群馬県教育委員会の黒澤照弘氏による発表です。遺跡からは天明三年（1783）の浅間山噴火によりおこった「天明泥流」で埋没した村が発見されています。浅間山北麓で発生した土砂なだれが、吾妻川に流入し泥流になったと考えられ、記録によると、約 1,500 人の方の命が失われたとされています。厚さ１ mほどの天明泥流下から、建物、井戸、畑、道跡などが発見され、「線香が燃え残る

遺跡発表会の様子

香炉（こうろ）」など、村人が被災する直前まで使っていたような道具類も出土しています。また、1号建物では、泥流に流されたと思われる数多くの下駄（げた）や草履（ぞうり）が建物の床下や壁際から見つかっており、被災当時の生々しい村の様子が紹介されました。

特別講演は文化庁文化財第二課埋蔵文化財部門斉藤慶吏（さいとうやすし）文化財調査官によるものです。「発掘された日本列島」展は、平成7年度から毎年開催されており、今回で25回目になります。今回は、全国12遺跡の速報展示と特集展示Ⅰ「福島の復旧・復興と埋蔵文化財」、特集展示Ⅱ「記念物100年」で構成されており、速報展示では、上記4遺跡の他、縄文時代：青森県白神山地東麓縄文遺跡群（しらがみさんちとうろく）、長野県エリ穴遺跡、弥生時代：大阪府郡（こおり）遺跡・倍賀（へか）遺跡、鹿児島県山ノ口（やまのくち）遺跡、古墳時代：岡山県金蔵山（かなくらやま）古墳、古代：山梨県ケカチ遺跡、鳥取県青谷横木（あおやよこぎ）遺跡、近代：富山県富山城下町遺跡が取り上げられ、各遺跡の見どころについて解説がありました。

「福島の復旧・復興と埋蔵文化財」では、福島県浜通り地域の15遺跡が取り上げられ、この地域の豊かな歴史文化の一端が提示されました。「記念物100年」については、2019年が文化財保護法の前身の一つである史跡名勝天然記念物保存法が施行されて100年目にあたることから、代表的な「史跡」・「名勝」・「天然記念物」が紹介されました。

・・・・・・・展示解説・・・・・・・

「発掘された日本列島」展における展示解説は、昨年度から始めました。江戸東京博物館での会期中、平日の火曜日と木曜日の10：30からと14：30から40分間ほどの展示解説を行いました。より詳細に、より身近に展示遺跡を理解してもらうために行っていますが、間近で遺物を見ていただきながらの解説は、展示遺跡を理解するにあたって、何よりも説得力があるのではないでしょうか。次年度の実施内容については、今後もホームページ等でお知らせしていきます。

・・・・・・・・・スタンプラリー・・・・・・・・・

関東ブロック協議会加盟法人の他、31館の協力館が対象施設となり、6月1日から11月30日にかけて実施しています。三都県以上のスタンプを集めれば抽選でオリジナル考古グッズが当たります。この機会に関東地方にある埋蔵文化財センターや博物館・資料館などを巡りながら、各地の歴史を体感してみませんか？

スタンプシートは、全国埋蔵文化財法人連絡協議会サイト（http://www.zenmaibun.com/）および当センターホームページからもダウンロードできますので、是非、ご活用ください。　（西澤　明）

都県	名　　称	住　　所	電話
茨城県	茨城県立歴史館	茨城県水戸市緑町2丁目1-15	029-225-4425
	茨城県埋蔵文化財センター	茨城県東茨城郡城里町北方1481 いせきぴあ茨城内	029-289-3300
	（公財）ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社埋蔵文化財調査センター	茨城県ひたちなか市中根3499	029-276-8311
	（公財）鹿嶋市文化スポーツ振興事業団 鹿嶋市どきどきセンター	茨城県鹿嶋市粟生字十二神2242-1	0299-84-0778
栃木県	下野薬師寺歴史館	栃木県下野市薬師寺1636	0285-47-3121
	しもつけ風土記の丘資料館	栃木県下野市国分寺993	0285-44-5049
	那珂川町なす風土記の丘資料館	栃木県那須郡那珂川町小川3789	0287-96-3366
	大田原市なす風土記の丘湯津上資料館	栃木県大田原市湯津上192	0287-98-3322
	栃木県立博物館	栃木県宇都宮市睦町2-2	028-634-1311
	（公財）とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター	栃木県下野市紫474	0285-44-8441
群馬県	渋川市埋蔵文化財センター	群馬県渋川市北橘町真壁2372-1	0279-52-2102
	渋川市北橘歴史資料館	群馬県渋川市北橘町真壁246-1	0279-52-4094
	渋川市赤城歴史資料館	群馬県渋川市赤城町勝保沢110	0279-56-8967
	かみつけの里博物館	群馬県高崎市井手町1514	027-373-8880
	岩宿博物館	群馬県みどり市笠懸町阿左美1790-1	0277-76-1701
	（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2	0279-52-2513
埼玉県	埼玉県立さきたま史跡の博物館	埼玉県行田市埼玉4834	048-559-1181
	埼玉県立歴史と民俗の博物館	埼玉県さいたま市大宮区高鼻町4-219	048-645-8171
	埼玉県立嵐山史跡の博物館	埼玉県比企郡嵐山町菅谷757	0493-62-5896
	所沢市立埋蔵文化財調査センター	埼玉県所沢市北野2-12-1	04-2947-0012
	深谷市川本出土文化財管理センター	埼玉県深谷市菅沼1019	048-583-6019
	熊谷市立江南文化財センター	埼玉県熊谷市千代329	048-536-5062
	（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団	埼玉県熊谷市船木台4-4-1	0493-39-3579
千葉県	千葉県立房総のむら	千葉県印旛郡栄町龍角寺1028	0476-95-3333
	市立市川考古博物館	千葉県市川市堀之内二丁目26番1号	047-373-2202
	白井市郷土資料館	千葉県白井市復1148-8 （白井市文化センター内）	047-492-1124
	印西市立印旛歴史民俗資料館	千葉県印西市岩戸1742	0476-99-0002
	八街市郷土資料館	千葉県八街市八街ほ800番地3	043-443-1726
	成田市三里塚御料牧場記念館	千葉県成田市三里塚御料1-34	0476-35-0442
	成田市下総歴史民俗資料館	千葉県成田市高岡1500	0476-96-0080
	千葉県立中央博物館	千葉県千葉市中央区青葉町955-2	043-265-3111
	松戸市立博物館	千葉県松戸市千駄堀671	047-384-8181
	（公財）印旛郡市文化財センター	千葉県佐倉市春路1-1-4	043-484-0126
東京都	江戸東京博物館（6/1～7/21のみ）	東京都墨田区横網1-4-1	03-3626-9974
	日野市郷土資料館	東京都日野市程久保550	042-592-0981
	（公財）東京都スポーツ文化事業団 東京都埋蔵文化財センター	東京都多摩市落合1-14-2	042-374-8044
神奈川県	横浜市三殿台考古館	神奈川県横浜市磯子区岡村4-11-22	045-761-4571
	川崎市市民ミュージアム	神奈川県川崎市中原区等々力1番2号	044-754-4500

関東考古学フェア　スタンプラリー参加施設

遺跡だより 121

新宿区　市谷本村町遺跡

所在地：新宿区市谷本村町
調査期間：2019 年 4 月～ 2020 年 3 月
調査面積：6,238 ㎡

市谷本村町遺跡（新宿区№ 61 遺跡）は、新宿区市谷本村町に所在する遺跡で、江戸城外堀の西側に位置しています。江戸時代の 17 世紀中頃から 19 世紀半ば頃まで、尾張徳川家の市谷邸（上屋敷）があった場所を中心として広がっています。

今回の発掘調査は、市ヶ谷警察総合庁舎の整備事業に伴い、遺跡の北西側の範囲を対象として実施しています。尾張藩は明暦 2 年（1656 年）に幕府から一帯の屋敷地を拝領した後、明和 5 年（1768 年）になって添地された場所に西御殿を造営しますが、調査地点はその西御殿があったと推定される範囲の一部にあたり、それ以前には旗本屋敷や火除地などがあったとされています。本年度の調査期間は 2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までですが、現在のところ、江戸時代の礎石跡、井戸、道路状遺構、地下室、土取り穴等といった大型土坑のほか、多数の土坑やピットが検出されています（写真 1）。

写真 1　道路状遺構及び土坑、ピット群

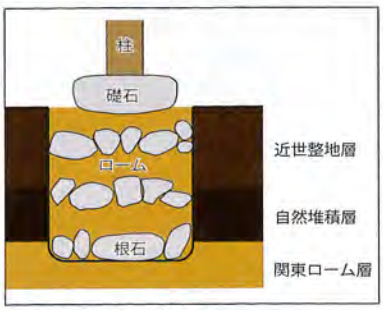

図 1　礎石跡の模式図

遺構や遺物は、①市谷邸西御殿に伴うものと、②西御殿拝領以前のものとに大きく分けられます。西御殿に伴うとみられる遺構の多くは、建物の柱を支える礎石の痕跡です。礎石そのものは後の時代に取り外されたようで、残っていませんでしたが、地面に 1 辺 80 ㎝程度の隅丸方形の穴をローム層に届くまで深く掘り下げ、そこに、深いものでは 2m 以上の深さまで石とロームを交互に埋めて固めていました（図 1）。これらの石は根石と呼ばれるもので、拳大のサイズから、大きなものでは直径 40 ㎝ほどあるものが使われており、大きな屋敷を支えるため、このように基礎を入念に固めていたと推定されます。同様の遺構はこれまでの調査でも数多く見つかっており、それらの規模や配列は、西御殿に関わる建物がどう配置されていたかを知る重要な手掛かりとなります。西御殿より前の時期の遺構は、道路状遺構、地下室、土坑群、井戸、ピット群などが挙げられます。道路状遺構は、北西から南東方向へ延びるものや、南北方向へ延びるもの等複数みつかっていますが、同様の遺構はこれまでの調査でも検出されており、今回検出されたものは、その延長にあたるものです。道路状遺構は幅約 1.8 ～ 2.5m ほどの浅い溝状をなすもので、断面は中央が凹む弧状を呈しています。底面は非常に硬くなっています（硬化面）が、これは当時の道の往来によるものと考えられます。また、その上には荷車などの轍（写真 2）と考えられるものも複数条見つかっています。江戸時代の「御府内往還其外沿革図書」という絵図には、この付近に存在した道が描かれており、今回検出された道路状遺構は、それらの道の一部にあたる可能性が高いと考えられます。出土遺物のほとんどは江戸時代のもので、陶磁器や土器、土製品（人形等）、石製品（硯や砥石）、金属製品等多岐にわたります。また、なかには中国大陸からもたらされた明代の磁器もありました。

（寺西朗平）

写真 2　道路状遺構と轍の痕跡（矢印）

あの遺跡は現在（いま）！？ Vol.15

― 新宿御苑「大温室」地点　新宿区 内藤町遺跡 ―

東京都埋蔵文化財センターでは多摩ニュータウン遺跡群をはじめ、都内各地の遺跡の発掘調査を行ってきました。
このコーナーでは調査時と現在の写真を比べながら、調査後の遺跡がどのように変わったのかご紹介します。
もしかしたら皆さんが日常利用している施設や道路の下にも遺跡が眠っていたのかも知れません。

新宿駅から徒歩約10分、繁華街を抜けた先には緑豊かな新宿御苑（しんじゅくぎょえん）が広がっています。園内の北東部にある大温室では、世界各地の熱帯の植物たちを、季節を問わず観賞することが出来ます。今回はこの大温室建て替えによって行われた発掘調査で発見された遺構をご紹介します。

新宿御苑の一帯は江戸時代に信濃高遠藩（しなのたかとおはん）内藤家が拝領（はいりょう）し、幕末までその下屋敷（しもやしき）として使用されていました。明治5年に明治政府に買い上げられ、大蔵省の農業試験場となります。翌年、内務省の管轄（かんかつ）に移り、明治12年には宮内省に移管され「新宿植物御苑」となりました。近代以降、この地は農作物や園芸植物の収集、栽培、改良、また宮中の御料（ごりょう）農場として、そして世界中から集められた植物の観賞場所として使用されていたのです。これらの整備に特に尽力した福羽逸人（ふくばはやと）は、この御苑の地で温室ブドウやメロン、苺（いちご）の栽培実験、品種改良に努め、現在流通している品種にも、御苑の地で生まれた品種を祖とするものも少なくありません。福羽は明治39年の御苑の庭園修築への中心人物でもありました。戦後、新宿御苑は国民公園として一般開放されますが、内閣主催の「菊を見る会」、「桜を見る会」会場にもなっており、公的な園芸観賞の舞台としての役目を担っています。

発掘調査では明治25年から29年にかけて建てられた初期の温室の遺構が調査されました。E字形に建てられた温室はイギリスの温室をモデルに建てられたとみられます。調査では他に、後の改修によって建てられた温室の保温に不可欠なボイラー室やその燃料の石炭を保管する貯炭室跡なども見つかっています。　（武内　啓）

◆調査成果が掲載された報告書
2010『内藤町遺跡―新宿御苑大温室の整備に伴う埋蔵文化財調査―』東京都埋蔵文化財センター調査報告第246集　東京都埋蔵文化財センター

写真1　調査時に検出された温室の基礎部分。基礎は根石（ねいし）の上に切石を積み、その上に煉瓦（れんが）が敷かれている。
写真2　現在大温室脇で展示公開されている温室基礎。大温室入口北側に展示コーナーがある。

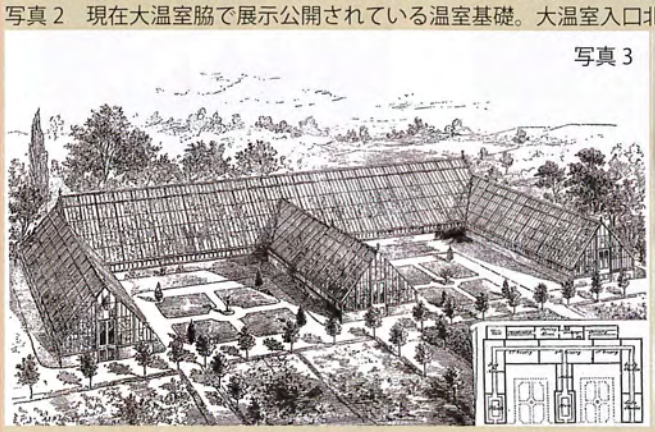

写真3　初期温室のモデルと思われるイギリスのMessenger & Co社の「温室カタログ」
写真4　調査で出土した遺物。磁器碗の外面に「宮内省」の文字が印刷されており、宮内省が管理していた時期を示す資料である。

2019 夏休み 親子体験教室

今年も猛暑の夏となりましたが、皆さまは何をして過ごされましたか？東京都埋蔵文化財センターでは今年も「夏休み親子体験教室」と銘打ち、多くの親子行事を開催いたしました。

今年度は新企画として「学芸員と一緒に展示を見よう」「学芸員に聞こう」を毎週開催。「学芸員と一緒に展示を見よう」では実際に企画展示を担当した学芸員による展示解説を行い、展示パネルやパンフレットに載せきれなかった小ネタなどを紹介しました。「学芸員に聞こう」では夏休みの宿題のお手伝いとして、子供たちと共に書籍を紐解き、解説を行いました。どちらも初の試みで参加人数はやや少なかったものの、少人数ならではの濃い時間を過ごしていただけたのではないでしょうか。

例年行っている行事としては、「多摩の縄文土器を作ろう」を皮切りに、「土偶レリーフを作ろう」「縄文時代の布を再現しよう」「古代の火おこし道具を作って火を起こしてみよう」「勾玉・耳飾りを作ろう」などの行事を行い、親子でさまざまなものづくりに挑戦していただきました。夏休みの自由研究にするという子供たちも多く、作品を作るだけでなく「なぜ・どうして・どうやって」といった質問もたくさん頂きました。どんな自由研究に仕上がったのか、気になるところです。

また、昨年度に引き続き、低年齢の子供たちに向けた行事、「縄文土器の模様を写し取ろう」と「折り紙で大昔の家を見てみよう」も開催しました。子供だけでなく、大人にも楽しんでご参加いただけたようです。クレヨンや折り紙を使った行事ですが、このような身近なものをきっかけに、縄文時代や歴史について興味を持っていただけたら嬉しく思います。

共同事業も、町田市との「縄文土器をよむ」関連ワークショップや、文京区との「子ども考古学教室」、北区飛鳥山博物館との「夏休み縄文人なりきり体験教室」、大泉図書館との「むかし探偵になろう」、多摩動物公園との「親子で学ぼう！人間と動物のつながり」、港区との「夏休み体験ミュージアム」などさまざまな行事を開催しました。都心部と多摩丘陵の縄文土器を比較してみたり、自分たちの町に数百年前、数千年前は何があったのか知ったり、実際の動物を見ながら縄文人たちと生き物の関わりを学んだり、子供たちにとって貴重な体験となったのではないでしょうか。

東京都埋蔵文化財センターの夏は今年もイベント盛りだくさんの夏となりました。もちろん、夏以外も多くのイベントを開催しておりますので、ぜひご参加ください。

（髙田優衣）

①縄文時代の布を再現しよう
②古代の火おこし道具を作って火を起こしてみよう
③土偶レリーフを作ろう
④勾玉・耳飾りを作ろう
⑤縄文土器の模様を写し取ろう
⑥夏休み縄文人なりきり体験
⑦多摩の縄文土器を作ろう
⑧縄文土器の野焼き

夕闇の物体

９月　浪江町の鹿屋敷遺跡、青色回転灯とオオカミのおしっこによるイノシシ対策、大正解である。これで安心して発掘ができる、と気を許していたある日の午後のこと。竪穴住居跡の調査を急いでいた時である。なんと幅40ｍの調査区を西から東へ、イノシシ親子が列をなして疾走してきた。皆、下を向いて発掘に専念しているので気づかない。誰かが「あっ、イノシシ！」と叫んだ時には遺跡の真ん中に達していた。誰もが茫然として眼だけで追っている間に、先頭は東側の藪の中に消え、遅れた子供が調査区境の段をあわててよじ登っていた。なんと昼日中に、人が大勢散開する遺跡発掘現場のど真ん中を、イノシシ部隊に敵中突破をはかられたのだ。部隊も藪から顔を出したら、人がいたので動揺したが、大胆にも突破をはかる作戦にでたのか。「ブヒー！（敵中突破、40ｍ全力疾走！）」と号令し、大きな鼻に息をため、全速力。対岸の藪の先で「はっは、フー、ヒー」と息をついていたのかもしれない。

10月　この事件の後、別の部隊と係ることになる。我々の調査は、日中の作業が終わると車で浪江町の北に位置する南相馬市原町区の宿に戻る。国道６号が最も近道である。しかし、夕方の国道は車が殺到してあちこちで渋滞。そのため、国道東側の海岸沿いの道か、逆に西側の山沿いの道を走った方が、距離は長いが信号も少なく、早く着く。浪江町棚塩より一度南相馬市小高区浦尻の浜側に出て、今度は西に向きを変え、国道６号とJR常磐線を横切り、山よりの道を走る。陸前浜街道だ。夕方、車のライトをつけだした頃、事件は起きた。小高区から原町区へ抜け坂道を降り切ったところで、黒い影と公用車が接触した。左から低い姿勢の物体が飛び出してきた。「うわっ」、急ブレーキを踏むも、左後輪付近に何かが２回連続で当たる音がした。後続車も迫っている。バックミラーには車のライトに照らされた黒々としたイノシシが、道路を反対方向に渡っていくのが見えた。狭い道で既に暗いため、その場での停車はかえって危険と判断し、駐車場がある地点まで移動した。車にへこみや傷などはないようだ。福島県財団の遺跡調査部へ一報を入れた。翌日、警察と市役所に通報するよう指示があり、リース会社には本部から連絡を入れるとのこと。翌朝、朝陽の中で確認するも傷の痕跡もない（写真１）。タイヤに激突したようだ。南相馬市役所に通報したところ、「承りました」で終了。一方、南相馬警察署は「直ぐに車を持ってきなさい」という。車を洗ったりしない限り痕跡は読み取れ、事故証明は出せると強気であった。結局、車の現状写真と現地写真を撮り、リース会社で車体確認をうけることで一件落着した。

写真１　イノシシと衝突した車。傷やへこみはない。

写真２　イノシシと衝突した南相馬市原町区の現場

夕方、記憶とナビを頼りに現地を確認した。山道ではなく、人家が近い。山際から田んぼ道を歩いてきたイノシシと道路で接触したようだ。車はひっきりなしに走り、左右をよく見ていないと人間でも横断は難しい（写真２）。　（及川良彦）

～次回へ続く～

ひと×いきもの 令和元年度企画展示解説 1 「足跡の情景」

今年度の企画展示は『ひと×いきもの』。長い歴史の中で、私たちはどのようにいきものたちと関わって来たのかという視点で資料を集めました。中でも、足跡は生きた肉体を感じることのできる資料で、残された時の状況を考えあわせると、その主の仕草や行動などが推測できます。

例えば、写真１はいずれもやきもので、内側には動物の足跡が残されていました。①・②にはネコ科、③にはイヌ科の動物の足跡がくっきりとついています。粘土から形を作り、乾燥させている間についたのでしょう。足跡の主たちは、器や蓋が並ぶ工房を自由気ままに歩き回り、ふとした拍子によろめいて、生乾きの製品を踏んでしまったのだろうか？などと想像することもできます。また、足跡のついてしまったこれらの器や蓋も製品として流通しています。実用に支障がないとはいえ、当時の人々のおおらかさが垣間見えるのも面白いところです。

①

②

③

写真１
動物の足跡がついたやきもの
①焼塩壺の蓋：展示中
新宿区内藤町遺跡出土（江戸時代）
画像提供：新宿区教育委員会
②須恵器坏
兵庫県姫路市見野古墳群出土（古墳時代）
画像提供：姫路市埋蔵文化財センター
③須恵器坏蓋
広島県久井町熊ヶ迫２号窯跡出土（奈良時代）
画像提供：広島県教育委員会

やきものだけではなく、大地に直接残された足跡も見つかっています。写真２は、縄文時代の集落遺跡で見つかった足跡群です。この遺跡は、琵琶湖にほど近い低地にあり、洪水で泥に覆われてしまったと考えられています。その泥の面に、ヒトとイヌのものと推定される足跡が残されていたのです。発掘

写真２　滋賀県長浜市平方遺跡で見つかった足跡群。赤矢印はイヌ、その他はヒトのものと推定されている。　画像提供：長浜市

調査の担当者は、まだ水が引ききらないムラの様子を住人とその飼い犬が見に来たのだろうと解釈しています。被災直後の心細さの中、頼りになる相棒としてイヌを伴ったのでしょうか？その心情まで想像できるようです。近隣の他の遺跡では、シカ・イノシシなどの足跡も発見されており、水辺のぬかるみで足を取られている様子や泥浴びをする様子が捉えられています。全国的には、水田耕作に使われたウマやウシの足跡が見つかることもあり、農業技術史を解き明かす手がかりとなっています。

最後に、我が多摩ニュータウン遺跡の事例もご紹介しましょう。写真３は№949遺跡（町田市小山ヶ丘）で見つかった草鞋を伴う足跡です。この遺跡では、古墳時代に盛んに粘土採掘が行われていました。おそらく、地面の粘土質が強かったために履物が脱げてしまったのでしょう。足をとられた上に、裸足で引き上げねばならなかった持ち主に同情を禁じ得ません。

写真３　多摩ニュータウン№949遺跡で見つかった草鞋を伴う足跡（黒い部分が炭化した草鞋）：展示中（古墳時代後期／７世紀）

遺物や遺跡に足跡が残されることは珍しく、これを材料に様々な推測や想像を巡らせる私たちにとっては、超ラッキーな発見です。この幸運を、是非展示室でご堪能ください。　（両角まり）

※今号の表紙：市谷本村町遺跡で検出された道状遺構（写真左側から上辺に向かって延びる白線の内側）と西御殿期の礎石痕跡（写真右側の白線部分）。西から撮影

たまのよこやま 118　2019年9月30日発行
東京都埋蔵文化財センター　〒206-0033 多摩市落合 1-14-2 TEL 042-373-5296 https://www.tef.or.jp/maibun/